

《 私の好きな詩 ----- 大西政年（新居浜市役所コミュニティ課） 》



イラスト 尾崎眞吾(みすゞのこころ)
 2017年金子みすゞカレンダー表紙より

「金子みすゞ童謡全集」
 JULA出版局より

こつつん こつつん
 打(ぶ)たれる土は、
 よい畑になって、
 よい麦生むよ。
 朝から晩(ばん)まで、
 踏(ふ)まれる土は、
 よい路(みち)になって、
 車を通すよ。
 打(ぶ)たれぬ土は、
 踏まれぬ土は、
 要(い)らない土か。
 いえいえ、それは、
 名のない草の、
 おやどをするよ。

土

「こころ豊かに」

便利な世の中になったものだと思う。

知りたいことがあれば、手の平に収まる便利な機械が何でも教えてくれる。その機械が持つ情報量は豊富で、しかもすぐに答えをくれる。本当に便利な機械だ。しかも、その機械を使って、遠くの人と話ができるし、文字を送ることもできる。ほかにもたくさんの便利な道具があって、物で満ち溢れている今の世の中を、豊かであるかどうかを感じるか否かは、人それぞれかもしれない。でも、便利な道具を手に入れる一方で、大切な何かを失い、豊かさからは少々遠ざかってきているような、そんな時を過ごしているように、私は思う。

地球というこの星で生まれた生物は、この星の自然環境の中で、そして、太陽と月の力を借りて、命をつないできた。恐竜という巨大な生き物が残してくれた資源を使い、大地から石を取り出し、金属に加工し、人間はさまざまなものをこしらえ、活用し、暮らしている。すべては、自然の恩恵を受けて、今の便利な生活を維持しているのに、人間は自然に対して、当たり前という感情を持ってはいないだろうか。

便利な生活を追い求めるために、人間は必要以上に自然が残した資源を使い、大量のごみを排出し、山から木を奪い、大地をコンクリートで覆う。人間の自然に対するやさしさはどこへいったのだろう。

日本には、四季があり、その時々自然と向き合う習慣があったように思う。それは、春のお花見であり、秋のお月見であり、さまざまであるけれども、最近、そのような自然と人の集いも少なくなってきたと感じる。自然の美しさとありがたさを感じ、自然と共存しているということ、当たり前のことと思わないためにも、そのような季節の移り変わりの節目節目に、自然と向き合う機会は、とても大切なことだと思う。

お花見ならば、桜の花が主役かもしれないけれども、その花を咲かせた木であり、その桜の木を育てた大地、桜の木と共存する草花と虫たち、そこに集まる鳥たちがいる。時には雨が降り、お花見ができないときもあるけれども、その雨が桜の木を育てる。そしてその木は、陽を浴びて大きくなり、また来年、花を咲かせる。

自然には、ひとつひとつに意味があり、それぞれが主役となる物語がある。人間もそんな自然を構成する一員なんだ。自然の中に身をおいて、自然を感じ、自然とともに生活する。そんな暮らしの中に、豊かさがあるのではないだろうかと思う。

「打たれぬ土は 踏まれぬ土は 要らない土か」

自然の中には、不要なものはなんにもない。自然を構成する人間だってそうだ。いらない人などいないんだ。だから、自然にやさしく、人にやさしくしないとな。自然の中で、豊かに生きるために。

定例会日時のお知らせ

☆日時：毎月第2金曜日 AM10時～12時30分まで
 ☆場所：新居浜市まちづくり協働オフィス

エッセイ募集

☆私の好きなみすゞの詩
 ☆どしどしご投稿下さい。



石鎚みすゞコスモス情報

●会員期限更新の手続きをありがとうございました。

(お済みでない方は、現在も受け付けています)

7月19日で「石鎚みすゞコスモス」は15周年を迎えます。一緒に会を支えてくださった皆さまに感謝申し上げます。

●私たちは、下記の活動を行っています。どうぞお気軽にご参加ください。

- 定例会を毎月第二金曜日に開催し、金子みすゞの詩を通してその優しいまなざしを学ぶ
- 年に一度市民を対象に講演会・コンサート等を開催し多くの人々と感動を共にし、みすゞの心を広げる。
- 新居浜市小・中学生を対象に「金子みすゞ感想文・感想画」を募集する
- 「東日本・関東大震災義援金(みすゞ義援金)」(被災地の小学校へ金子みすゞの詩集を贈る)に参加協力する
- ジャスコとイオン専門店街の一部が実施している『幸せの黄色いリボン運動』に参加する
- アルミ缶回収運動を推進する

●来年度(2017年)カレンダー

『金子みすゞのこころ』(尾崎眞吾作)

の予約注文をします。ご希望の方は矢幡までご連絡ください。(2016年のカレンダーは売り切れのため購入できませんでした)

矢崎節夫第3童謡集

石鎚みすゞコスモス 15周年記念

金子みすゞの宇宙 …わらい…



- ★一部：みすゞトーク
わらいとこだまの世界
矢崎節夫/芸乃虎や志
…らくさぶろう
- ★二部：落語
柳家小満ん/芸乃虎や志

柳家小満ん(やなぎやこまん) 略歴

昭和十七年、横浜生まれ。昭和三十五年、横浜市立金沢高校卒、国立東京農工大学繊維工学部へ入学後すぐに、八代目桂文楽に魅せられて退学。昭和三十六年、内弟子として入門。芸名には師が心服をしていた歌人・吉井勇先生に因み‘桂小勇’を戴き前座となる。

昭和四十年、二つ目へ昇進。昭和四十六年、桂文楽死去。柳家小さん門下となる。昭和五十年、真打に昇進し、三代目柳家小満んを襲名した。

隔月の独演会「柳家小満んの会」(奇数月十三日、お江戸日本橋亭)

は、本年十一月で満二十七年の第282回目となる。折あらばぜひ、膝送りの雰囲気をお味わいください。

著書

- 『べけんや(わが師、桂文楽)』(河出文庫)
 - 『江戸東京落語散歩』(河出書房新社)
 - 『小満んのご馳走』(東京かわら版新書)
 - 『てきすと』(柳家小満ん口演用) 毎月発売中。
- 平成二十八年、十月。



矢崎節夫童謡集『さらりきーん』(JULY出版局より)

かさを さしてる
ぼくも からすに
やねの いた
いばって いた
びしよぬれ すきかあ
やね なしかあ

かさを さしてる
ぼくに からすが
やねの からすが
いばって いた
ぬれるの いやかあ
やね ありかあ

からすと ぼく